

令和7年度第2回平塚市文化振興懇話会会議録

【日時】 令和8年3月18日（水）10：00～11：30

【場所】 中央公民館3階 大会議室

【出席者】 構成員6名（敬称略）：沖野成紀、丸島隆雄、府川麻友美、
岩崎由紀子、森幸男、高橋孝祥
市職員4名（事務局）：齊藤市民部長、武井文化・交流課長、
荒原文化振興担当長、宇高主査
傍聴人：なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の選任

座長（沖野氏）、副座長（丸島氏）が選任された。

傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

5 議題

（1）平塚市の文化行政について

○事務局説明要旨

- ・資料（1）に基づき説明
- ・平塚市では市民部文化・交流課と教育委員会の社会教育部で役割分担をして文化行政に取り組んでいる。
- ・文化・交流課では、ひらしん平塚文化芸術ホールの管理運営のほか、文化情報誌の発行、平塚市文化振興基金の管理・活用、囲碁文化の振興や、まちづくり財団の文化事業への補助を行っている。

●文化情報誌たわわ

- ・平塚市にゆかりのある人・活動を、文化の観点から取り上げ、市民に紹介している。また、文化芸術ホールにある木谷實星のプラザの展示紹介や、文化芸術ホールの主催事業レポート、姉妹都市であるリトアニア共和国カウナス市の紹介も取り上げている。

●小学校アウトリーチ事業

- ・市内小学校に、プロの演奏家を派遣して、身近なところで音楽に触れてもらっている。
- ・令和7年度は6校実施済みで、3月23日にもう1校実施し、全部で7校の実施となる。

●平塚市文化振興基金

- ・市民文化の振興を図るために必要な長期的・安定的財源を確保するため、平成6年度に創設し、令和7年度は2月末までに5件、409,719円の寄付をいただいている。

- ・創設以来、累計で450件、71,210,597円の寄付をいただいている。
- ・この基金は、小学校アウトリーチ事業、平塚市まちづくり財団と連携して実施する囲碁文化振興事業、文化振興補助事業等に活用している。

●囲碁のまちづくり

- ・平塚市にはかつて木谷實九段が開設した木谷道場があったことから、囲碁を本市の特色ある文化と位置づけ、平塚市まちづくり財団に委託し、年間を通して囲碁大会、囲碁教室等を開催し、囲碁文化の振興を図っている。
- ・令和7年度は10月12日に「第28回湘南ひらつか囲碁まつり」を1000面打ち大会として開催し、1000面打ち大会の参加者は859人だった。
- ・湘南ひらつか七夕囲碁大会や女流棋聖戦大盤解説会、各種囲碁教室など概ね予定どおり開催した。

●公益財団法人平塚市まちづくり財団の事業

- ・文化芸術の振興を図るため、平塚市まちづくり財団に補助金を交付し、財団が普及振興事業を実施している。令和7年度は12月14日に2年ぶりに湘南ひらつか第九のつどいを開催したほか、1月24日に平塚フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラワークショップを開催した。

●ひらしん平塚文化芸術ホールの運営

- ・ひらしん平塚文化芸術ホールは、本市の文化芸術の創造拠点として、様々な文化芸術の鑑賞、体験、発表の場として活用されている。様々な事業が本ホールで実施されることで、市内外から多くの人に参加し、周辺の賑わいを創出している。詳細については次の議題で報告する。

○質問・意見等

構成員：文化情報誌たわわのバックナンバーは閲覧できるのか。

事務局：デジタルデータが残っている号については平塚市ホームページに掲載されている。それ以前の号については紙媒体で文化・交流課で保存されており、要望があれば在庫の範囲でお渡ししている。

構成員：古い号もデジタル化して公開してほしい。

事務局：スキャンをしてデジタルの状態での閲覧に耐えうるかをテストしてから公開する。

構成員：今の社会では多くの人が文化的なものに関わりのない生活を送っているが、実際に文化に関わっている人はどれくらいいるのか調査できないか。調査によりなにか方向性を打ち出せないか。

事務局：令和6年度に行われた平塚市文化芸術振興計画の中間見直しにおいて、3,000人の16歳以上の人に無作為でアンケートを送っており、1,011通の回答をいただいている。そのアンケートの中に過去1年間で文化芸術活動をしたと25%の人が回答しており、4分の1の人は文化芸術活動をされているということになる。

世代別にみると仕事をしている20～50代の方は平均より少ないが、定年後の60～70、学校で活動がある10代が高い割合を占めている。

構成員：美術館や博物館の近隣に住んでいるが、その敷居をまたがず70代になる人がかなりいる。関心が無い人が多い。例えば企業や行政の中でボランティアを募って、芸術文化の経験者から気楽に安く学ぶことができるような組織ができないだろうか。ワークショップだけでなく継続的に活動できるスタイルが構築できないか。

事務局：平塚市は全国と比べた特徴の一つとして地区公民館が充実していることが挙げられる。各地区公民館では文化的な活動も含め様々なサークル活動が行われており、そういった部分のさらなる充実も進めていくべきだと思われる。

事務局：補足として、文化芸術ホールは通常のホールと違ってチケットを買って公演を見に来る人だけではなく、オープンスペースに様々な人が訪れている。オープンスペースの利用者にホールの空気を経験していただいたり、無料のオープンライブ等を開催して文化芸術への敷居を下げ多くの人に関心を持っていただいている。

構成員：平塚の社会教育資源はなかなか活用されてないと思う。公民館の話があったが、各所で人が集まらないと聞いている。定年の延長等で70代でも働いている人が多くいて、地域活動や文化活動に関われる人が少ない。そうすると地域の踊りなど文化の継承も難しくなる。なにか手を入れられればと思う。

座長：これまでの意見をまとめる。

①たわわのバックナンバーの電子化について意見があった。

②平塚市の文化芸術に関わる人を増やせないか意見があった。

(2) ひらしん平塚文化芸術ホールの運営状況について

○事務局説明要旨

・資料(2)に基づき説明。

●令和6年度・7年度の利用状況

・令和6年度の実績として、貸し出し施設の利用数は累計1年間で145,230人であった。

・令和7年度は、1月までの人数で比較すると令和6年度の同時期より7,576人増加、約6.4%増えている。

・令和6年度の各施設の利用率は、大ホールは62.1%、多目的ホールは67.3%、全施設平均で65.6%となっている。

・令和7年度1月末時点の利用率は、全体で72.1%となっている。

●令和7年度事業実施について

・指定管理者が実施する事業には、市の指定管理料を充てて実施する主催事業と、指定管理者の自主企画としてチケット収入の責任を負う自主事業の2種類がある。

・主催事業は年間32,855人の参加があり、自主事業は8,231人の参加があった。

○質問・意見等

構成員：利用者数について、オープンスペースの利用者は含まれているか。

事務局：含まれていない。

構成員：ひらつか鉄道の日はどんなイベントか。また、紙芝居講座と絵本講座についても読み聞かせなのかそれとも紙芝居や絵本の制作の講座なのか。

事務局：ひらつか鉄道の日について、鉄道模型の走行会と、公園にレールを敷いて子どもが乗れるミニ車を走らせるイベントと、文化公園内に展示されている汽車の紹介を博物館が作成し、展示するというイベントで、幅広い年齢層に参加していただいた。

2点目の紙芝居講座絵本講座については、両方読み聞かせのイベントであるが、紙芝居、絵本の紹介や読み聞かせの技法なども学べるようになっている。

構成員：そういった親子向けイベントは小学校や幼稚園へ案内を出せば興味を持ってもらえるのでは。

事務局：親子向けイベントについては、教育委員会にも協力してもらい小中学校、幼稚園、保育園、子育て支援施設にもチラシ配布やポスターの掲示を依頼している。また、スマートフォンでの情報収集に対応できるよう、平塚市公式LINEや指定管理者の運用しているSNS、情報サイト等を活用している。

構成員：我々はたまたまひらしん平塚文化芸術ホールによく行くので子どもの喜びそ

うなものに参加しているが、そういったイベントを知らない人が随分多いのでは。

事務局：100%告知が行き届いているかというところではないので、引き続き子育て世代がよく見る民間のウェブメディア等と連携して無料で事業を紹介してもらおうなど、工夫をしていく。

構成員：紙芝居講座絵本講座について、参加者人数が少なくもったいなく感じる。小学校の読み聞かせボランティアの大人も参加すれば小学校や図書館に周知が広がるのでは。

事務局：紙芝居講座絵本講座の参加人数については、キッズルームという定員10名ほどの部屋を使用していることにより、定員はこれでいっぱいである。今後広い部屋での開催も検討する。

構成員：現代はライフスタイルの変化により文化に関わることが少なく、表面的な華やかさや勝ち負けを見ているだけの人が多くなっていると思う。文化に触れて心を育てることが必要だと思う。

構成員：ダンスにしても音楽にしても、技術だけで心や情緒が足りていない人が多くなっているようだ。

事務局：平塚市文化振興計画において、文化芸術だけでなく、スポーツや産業、福祉等平塚市の人と人の生活に関わることすべてが平塚の文化を創っているという「ひらつか文化」を定義させていただいている。平塚の歴史や文化財、地域の盆踊り等も含め平塚の特徴ある文化であり、それを継承し発展させていくことがこの計画の大きな根幹である。各事業でそういった効果をどのように出していくのかは、今後も構成員の皆様からご意見をいただき精査していきたい。

座長：これまでの意見をまとめる。

- ①利用者にオープンスペースの利用者は含めるのか確認があった。
- ②ひらつか鉄道の日及び紙芝居講座と絵本講座の内容について確認があった。
- ③平塚市の文化の継承や文化触れる人を増やす必要性について意見があった。

(3) 平塚市文化芸術振興計画の進捗状況について

○事務局説明要旨

- ・資料(3)、(4)に基づき説明。
- 令和6年度、令和7年度事業進捗状況管理表についての懇話会意見について
 - ・前回文化振興懇話会で意見のあった5件の項目について、所管課の回答を説明した。
 - ・12月に令和6年度の進捗状況管理表を公表した。

○質問・意見等

構成員：ラスカをアートギャラリーの代替施設にすることについて、情報がなかなか伝わってこない。今決まったところだからと理解はしているが、担当課がどこになるのか等、どのような状況か教えてほしい。

事務局：担当課は美術館となる。担当課ではないので細かい情報については正確な回答ができないが、現在「ひらつか駅の図書室」として使用しているラスカホールをアートギャラリーの代替施設とすると議会の答弁の中では話されている。使用料もアートギャラリーの使用料と同程度で貸出する方向で進めていると聞いている。予約方法等については美術館へ問い合わせしてほしい。

構成員：弦斎まつりについて、実行委員会所属の方が調査しており、今後資料の整理ができればまつりでの展示ができるとあるが、調査している人は個人で研究をしており、自分で近代文学館などの資料を筆写したりしている。資料は撮

影もできるが、高額な撮影料金がかかってしまう。市で支援や連携をしていけないか。

事務局：所管課に伝える。

座 長：これまでの意見をまとめる。

①美術館のアートギャラリーの代替施設について確認があった。

②村井弦斎の調査について、市で支援や連携ができないか意見があった。

座 長：以上で議事を終了する。

6 事務連絡

7 閉会